

毎月灯

～灯りに集う新たな待ち合わせの場～

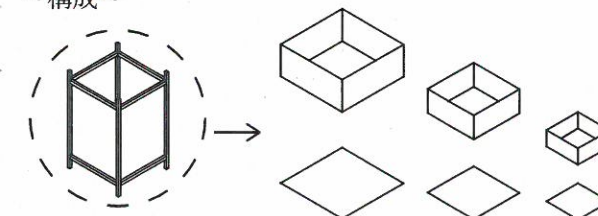
～計画趣旨～

鹿児島夏の風物詩「六月灯」は、人々が灯ろうの明かりの元に集い、にぎわう。

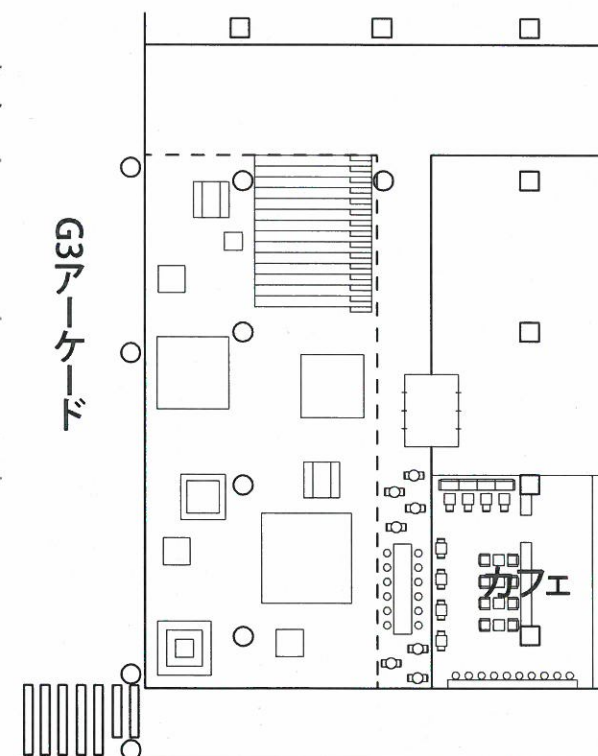
タカプラ前は待ち合わせの場として鹿児島人に親しまれてきた。そこで、この広場を新たな待ち合わせの場として計画する。

「六月灯」の風景をモチーフに、灯ろうを模した照明を広場に点在させる。点在する照明のもとに人々が待ち合わせ、六月だけでなく、毎月、毎日、賑わいが生まれ、この広場の計画が天文館の灯火となることを期待する。

～構成～



灯ろうをモチーフに様々な大きさの照明を形づくる。その灯りの下に灯ろうの形を投影し、様々な場を生み出す。



配置図 S=1:400

カフェを再開発ビル1Fに配置し、広場側をガラス製折戸にすることで、広場をオープンテラスとして一体的に利用できる。大階段はゆったり座れて自由に使える。ベンチは異なる大きさ・形のものを用意する。様々な場を設けることで、人数や時間、シチュエーションによって待ち合わせ場所を選択することができる。

山口大学大学院 創生科学研究科 建設環境系専攻
建築学コース 桑原 建大

